

熊谷スマートシティ

**Web共創・情報発信等
実践方針（案）**

○熊谷スマートシティにおける Web共創・情報発信の考え方

- 双方向性システムによる「企画」と「実行」のループの加速
- コミュニティラボの取組み
- （参考）リアルでの取組み

Web共創・情報発信に取り組む意義（案）

市民の満足度や都市の持続性に影響を与えるまちづくり・スマートシティ施策についてWebを通じて市民との意見交換を行いつつ政策を企画することには二つの面で意義があると考えられる。

（１）社会の状況や市民のニーズをよりの確に踏まえることができ、施策がより実効性のあるものになる。

また、その参画について、生活の場所・時間等に縛られないことで、多様な視点が確保されることが期待される。

（２）自らの意見が十分に聴かれ、社会の一部の実現に関わる経験は、自己肯定感を高め、生活の満足度（ウェルビーイングの一部）の向上につながる事が想定される。

また、特に若者などの社会の一員としての主体性を高め、地域社会への愛着を育むことなども期待される。

Web共創・情報発信に取り組むに際しての留意点（案）

○デジタルデバイドによる情報の偏りへの留意

Webで意見交換を行う場合、生活の場所・時間等に縛られないことで、多様な視点が確保されることが期待される一方で、デジタルデバイド（インターネットへのアクセスへの困難等）により、市民・関係者によっては正確な情報の取得が困難であったり、意見を表明しにくい可能性があることに留意する。

その対策として、デジタルデバイドの解消に引き続き取り組むと共に、意見の集約等に際しては特定のWebコミュニケーションツールのみでなく、その目的にかなう複数の手法を併用を検討することなどが考えられる。

○誤情報の拡散防止のための市役所公式情報の積極的な発信

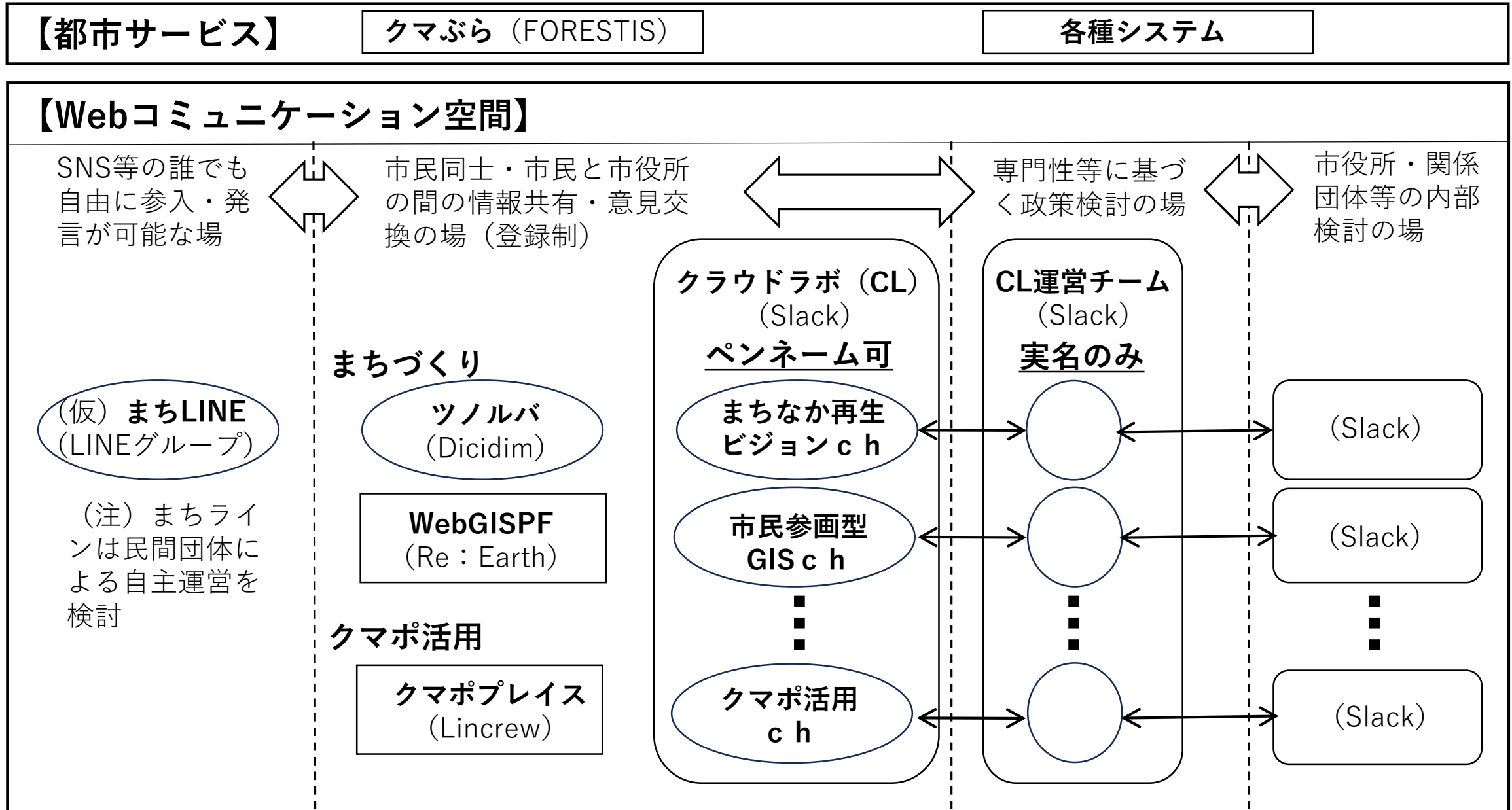
Web上での意見交換では、事実関係を誤解した情報等が検証されないまま用いられる場合がある。

これを防止するため、公民連携まちづくりやスマートシティに関して、意見交換やワークショップを開催した際には、開催の事実や、検討・取組に支障のない資料等について極力速やかにWebに掲載することで、議論の起点として市役所の公開情報等を活用できる環境を確保することが望ましい。

○匿名による安全性の確保と議論の有効性のバランス

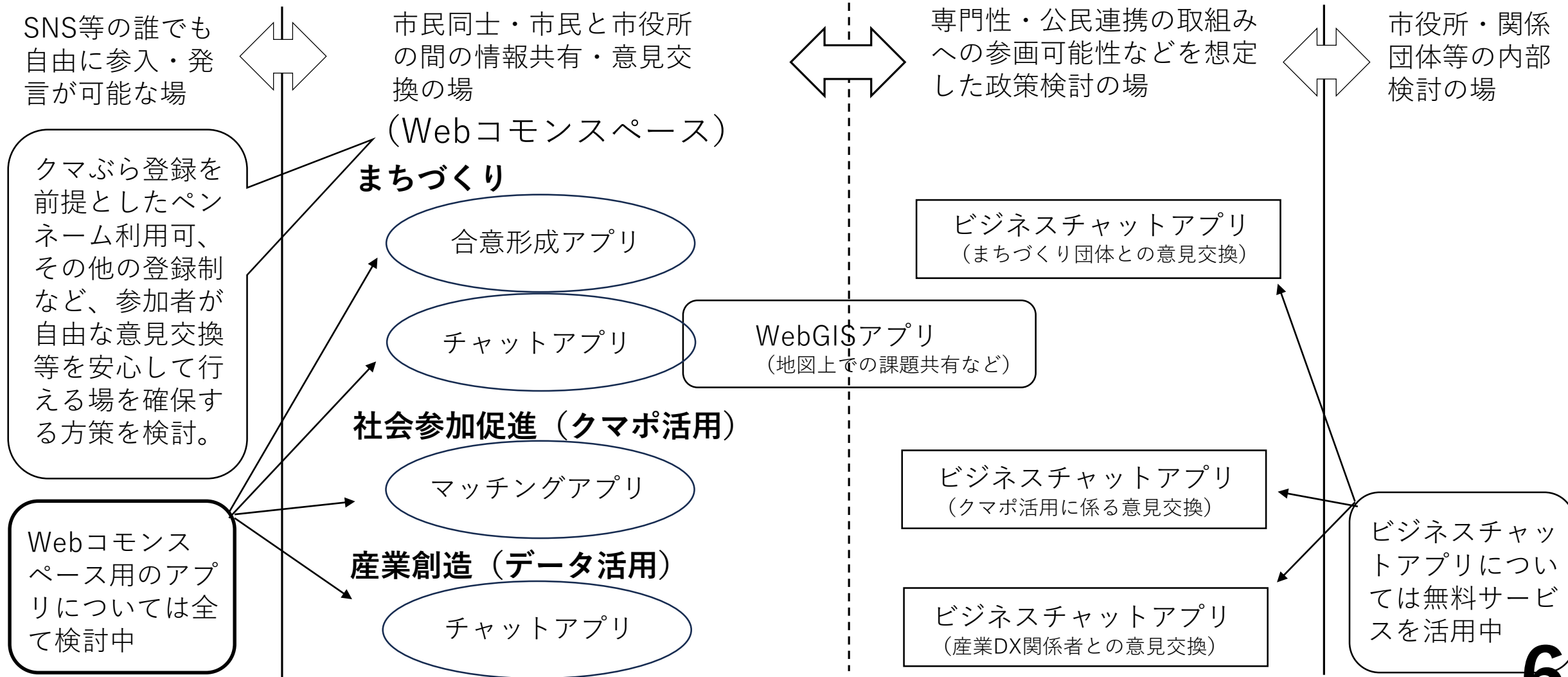
Web上での意見交換については、ペンネームの利用（匿名）を可能として、安全性の確保を可能とする必要がある。

その一方で、匿名であることにより参加者が無責任な発言をしやすくなる場合に備え、Webコミュニケーション空間の運営については、複数の専門家・関係団体との協力関係の構築、実名での対策協議の場の確保などを行い、参加者の安全性を確保しつつ、議論が実際の試行あるいは政策の企画に結びつきやすい環境の維持に努めるべきである。



(参考・旧版) Webコミュニケーションツール等の活用 (案)

まちづくり、社会参加促進（クマポ活用）、産業創造（データ活用）等の分野における、公民連携や民間主導の取組みを促進するためWeb上の情報共有・意見交換の場（Webコモンスペース）の設定を積極的に検討。



○熊谷スマートシティにおける
Web共創・情報発信の考え方

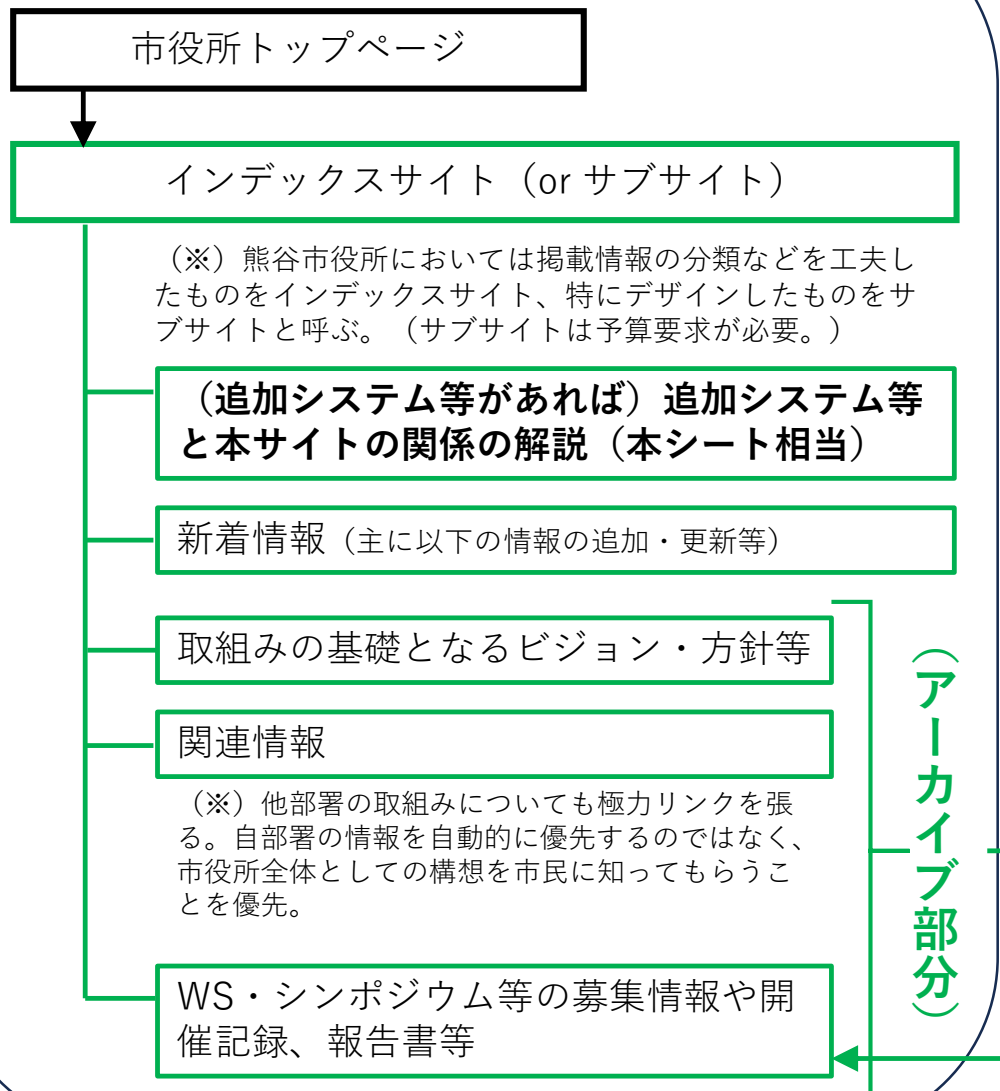
○双方向性システムによる「企画」と 「実行」のループの加速

○コミュニティラボの取組み

○（参考）リアルでの取組み

双方向性システムによる「企画」と「実行」のループの加速

【1】市役所Webサイト：特に注記がなくても市役所が記載内容に責任を持つ範囲



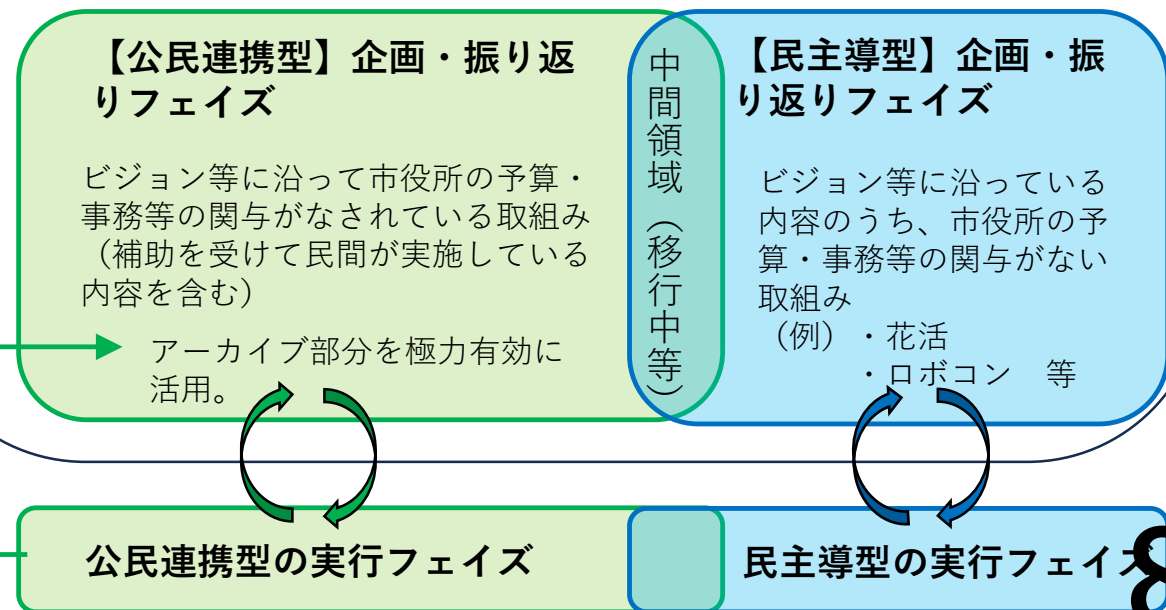
【2】追加システム (SCとしての呼称は「Webコモンスペース」)：市民の意見交換を促す範囲

【職員による書き込みの取扱い (案)】

(1) 市民の意見交換を促すために職員が記入する必要があるが、市役所のサイトに掲載されている内容 (【1】) を越える内容は、「個人の意見であり市役所を代表するものではない」取扱いであることを承知の上でご参加いただく。

(2) 職員は、政治的目的をもってする政治的行為等の法律上の違反、市役所内で保護すべきと既定されている予算等の情報に触れること、また追加システムへの参加上求められるマナー違反等 (原則として規約等に明記されているもの) を行わないように留意して書き込みを行う。

書き込み内容はだまかに以下の2グループに区別される想定。
(民主導型はモデレーターの存在が重要となる見込み。)



(参考) 変化に強い「企画」と「実行」ループの考え方

「PDCAサイクル」がPlan（計画）に基づいて1周することを前提とした考え方であるのに対し、下図の「OODAループ」は、必要に応じて途中で前の段階に戻ってループから再開できるなど自由度が高く変化に対応しやすい一方で、その特性を生かすためには変化をとらえるための観察・分析などを常に怠らない姿勢が必要とされる考え方です。

「星川将来ビジョン」の編集にあたり、対面に加えてデジタル手法を活用したコミュニケーションを促進し、またデータをまちづくりに活かして、社会の変化に応じたまちづくりを実践していく上では、OODAループの考え方が適するとの判断により、以下のとおり掲載したものです。



5

4

3

2

1

ビジョンを実現していくための動き方

ビジョンを実現させていくためには、行政(市役所)だけ、民間だけでは行うことはできません。
時には、行政が先頭立って進めていくこともあるかもしれませんが、民間の方とともに考え、情報を共有しながら進めていくことが重要になるかと思えます。
このビジョンは、誰かがやってくれるものではなく、関係するそれぞれが主体として関わってくれることを目指しています。
もちろん1人では実行できない職種も多いかと思えます。
意欲ある人が関われる機会をつくりながら、みんなで取り組んでいける環境を作っていければと思います。

この図式のように、ビジョンも取組も固定のものではなく、その都度柔軟に変わっていくものであると思います。
みんなで意見を出し合い、アイデアを取りまとめ、実現・実行し、暮らしの中で体験、またそれを踏まえてみんなで意見を出し合う、そんなサイクルを作りながら、より良い星川周辺を作っていくことを目指します。

9

○熊谷スマートシティにおける
Web共創・情報発信の考え方

○双方向性システムによる「企画」
と「実行」のループの加速

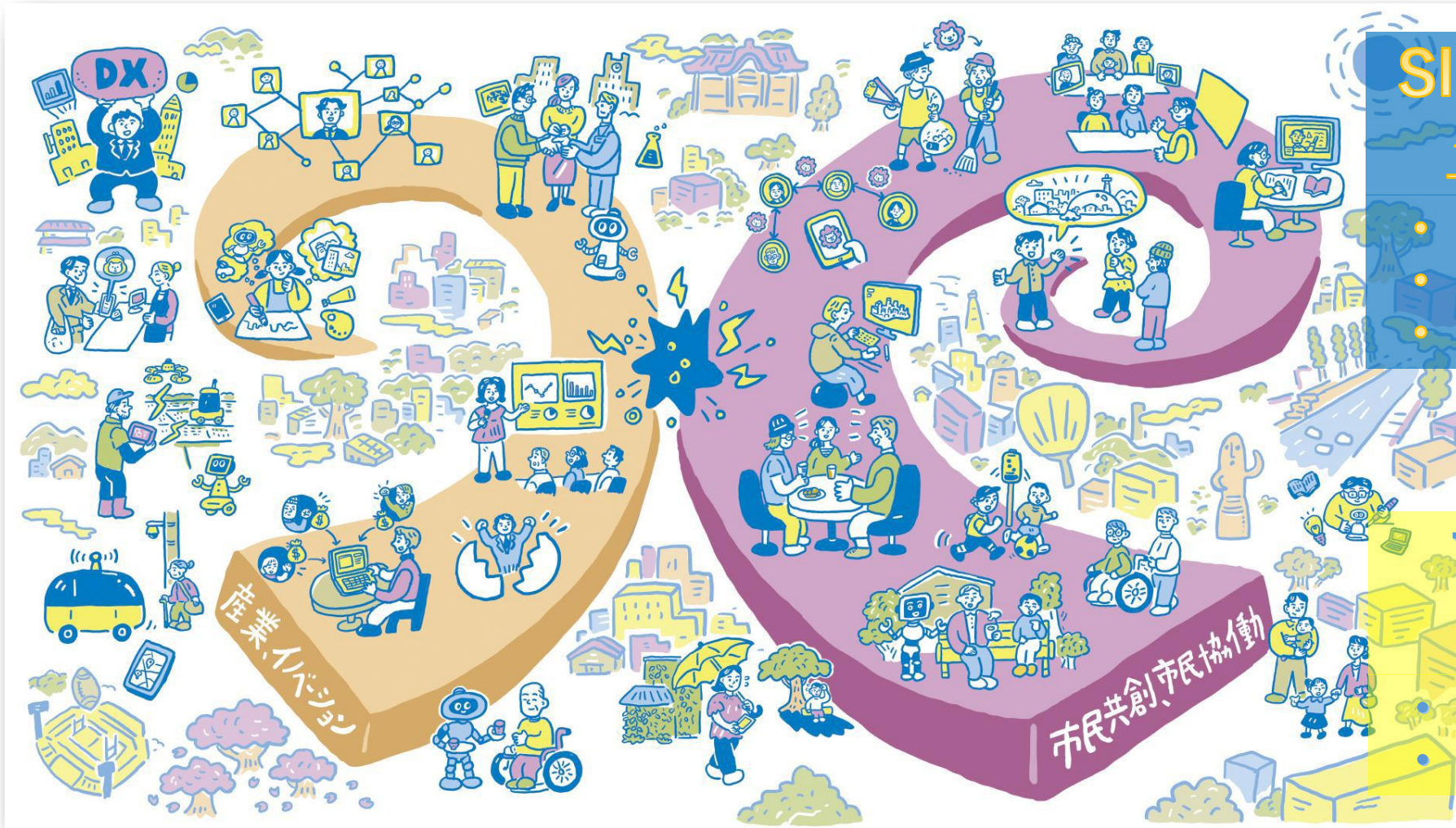
○コミュニティラボの取組み

○（参考）リアルでの取組み

【目指す方向性の共有（公開）】

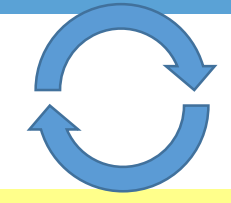
「コミュニティラボ」を核とした産業振興・共創

民間団体と市役所の連携によりウェブ上とリアル両面で運営



**Slackを活用した
クラウドラボ**

- オープンな議論
- データ共有の場
- 共創の加速

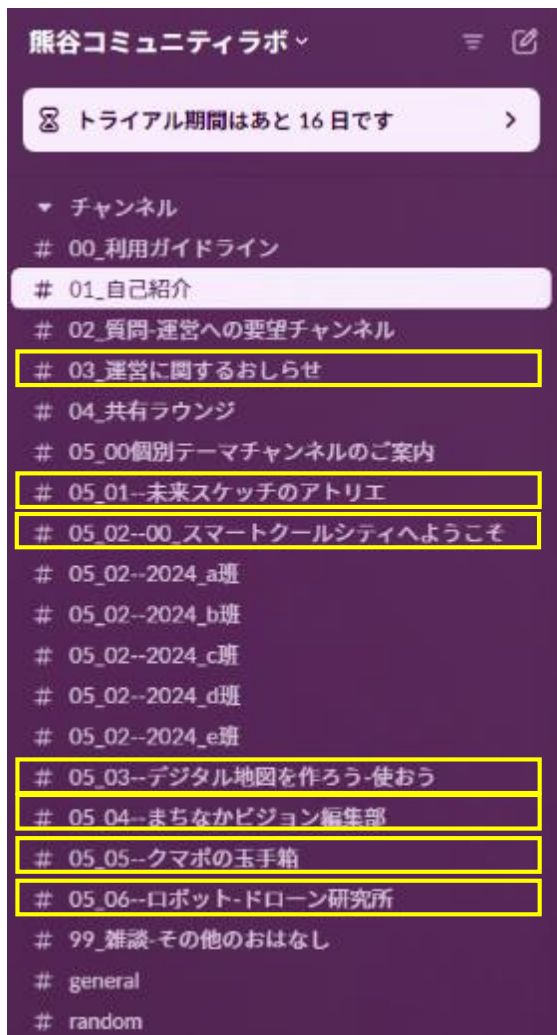


**市内会場での
リアルラボ**

- リアルな会合・体験
- ネットワークづくり

(組織運営軸) クラウドラボ (Slack) の構造

(A階層) 熊谷コミュニティラボ



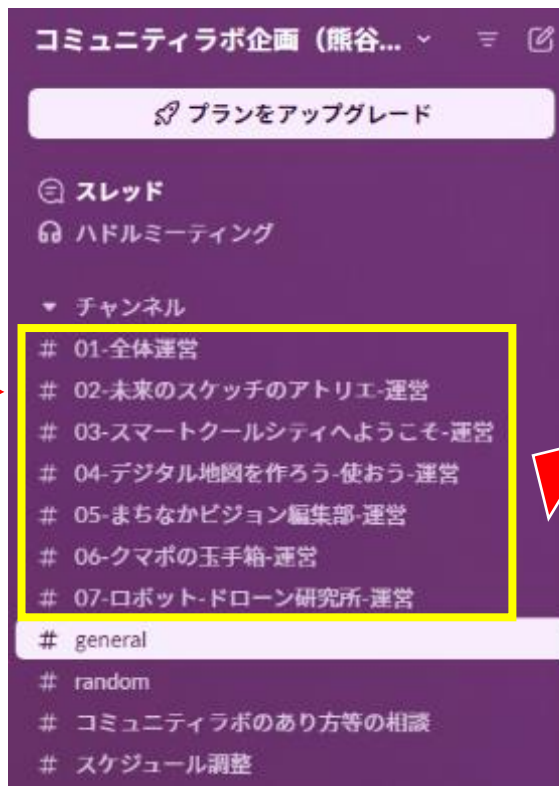
B階層とリンクするチャンネル

- ① 運営に関するお知らせ
- ② 未来スケッチのアトリエ
- ③ スマートクールシティへようこそ
- ④ デジタル地図を作ろう・使おう
- ⑤ まちなかビジョン編集部
- ⑥ クマポの玉手箱
- ⑦ ロボット・ドローン研究所

どなたでも入れる

(B階層)

コミュニティラボ企画 (熊谷市)



関係者のみが入れる

関係者が各チャンネルに集合して、A階層の同名のチャンネル運営などについて話し合う

(C階層) 個別ワークスペース

以下のチャンネルに加入している関係者皆様には、以下をお願いします。

A階層・B階層のワークスペースにそれぞれご参加いただく。

- ・ A階層は匿名でOK
- ・ B階層は実名・企業名あり



各ワークスペースごとに
関係者が個別に話し合う

(参考) クラウドラボの各チャンネル担当課 (案)

まちづくりビジョン
クマポ・プレイス
ドローン・ロボット

商業観光課・都市計画課 (まちなか・まちづくりPT)
市民活動推進課
企業活動支援課

(詳細は別紙「ドローン・ロボット・インフラ3D画像会議」参照)

シーンスケッチ
スマートクールシティ
市民参画型GIS

政策調査課
環境政策課 (暑さ対策) ・政策調査課 (システム・データ連携)
政策調査課 (WebGIS全般) ・都市計画課 (3D都市モデル)

自分らしく暮らせる「コミュニティラボ」
～やさしい未来発見都市を全ての市民へ～

知るを楽しもう つながろう **創り出そう**

- リアルラボ**
まちなかの様々な場所を体験の場「リアルラボ」として不定期オープン・公開コンテンツ(Web講座の視聴等)を提供。
・2024年1月～ 星川エリアモデルにまちづくり意見交換システムの実証を開始予定。
- クラウドラボ**
ビジネスチャットを活用した交流の場から全てのチャンネルへ!
・2024年7月～ 市のビジョン等に基づく公民連携のタウンマネジメント活動に市民が参加証明書を発行。
- まちづくり参画**
・2024年7月～ 市のビジョン等に基づく公民連携のタウンマネジメント活動に市民が参加証明書を発行。
- 双方向コンテンツ提供**
・公民館をつないだ学びあい企画を提供。
・2024年8月 小学生母体入門をWeb開催。
- クマポが巡る「やさしい未来」を探そう**
「してほしいこと」と「やれること」がつかまりやすくなるアイデアを発信
・2024年10月～ クマポ利用者向けのマッチングサイト「リンクル」を実施予定。

チャンネル「運営に関するお知らせ」
チャンネル「まちなかビジョン編集部」
チャンネル「クマポの玉手箱」

(※) 本資料のイラストの作成には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を使用しています。

夢を形にする「コミュニティラボ」
～やさしい未来発見都市を全ての市民へ～

未来を形に **夢を描こう** **データで示そう**

- 空の道**
休日は日本の舞臺の空に新しい「空の道」を
・年代別に応募可能・SF部門あり・CG可
- シーンスケッチコンテスト**
・年代別に応募可能・SF部門あり・CG可
- タブレットで書き込み**
小学生から利用可能な「カキコマップ」をスマートクールシティで活用
- ロボコンジム**
〈参考〉小学生のロボットプログラミングコンテスト「PRO JAPAN」群馬地区予選大会公式サイト
- スマートクールシティ**
〈デジタルデザイン企画〉スマートクールシティ
- Web(GIS)で共有**
〈参考〉市内一部高校の「社会的な探究の時間」でも活用(群馬西高Webサイト)

チャンネル「ロボット・ドローン研究所」
チャンネル「未来スケッチのアトリエ」
チャンネル「デジタル地図を作ろう・使おう」
チャンネル「スマートクールシティへようこそ」

(※) 本資料のイラストの作成には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を使用しています。

クラウドラボへの市役所職員参加に係る留意点（案）

1. クラウドラボへの参加について

熊谷スマートシティの一環として公民連携により運営される熊谷コミュニティラボのクラウドラボ（スラック）について、以下①②の目的のために業務上直接担当する以外のチャンネルの閲覧、質問等の書き込み、そのための登録を可能とする。

① 「熊谷スマートシティ宣言」、「熊谷市DX推進計画」に記載するスマートシティに関する取組み、その他の計画に定められた取組みを庁内連携・公民連携の下で、各システムやデータを有効に連携させつつ進める。

② 「熊谷市デジタル人材育成確保に関する基本方針」及び「熊谷スマートシティスキルカタログ」の実践に必要な知見を得る。

2. クラウドラボへの記入に係る情報管理・責任範囲について

(1) 職員によるクラウドラボへの書き込みについては、個人情報、予算に係る情報、その他「熊谷市情報セキュリティポリシー」により適切な管理が求められる内容について必要な管理を行うものとする。

(2) 職員が記入した情報は「市役所組織を代表するものではない」取扱いとする。(クラウドラボを始めとする各Webコモンスペース^(注)の前提として各資料等において明示する。)

(3) クラウドラボ上の応答のみでは市役所組織としての公式の回答、意思表示とならないことを前提に、必要に応じて、市役所Webサイトへの資料等の公開、電子メールでの応答などの別の手段による対応を適切に行う。

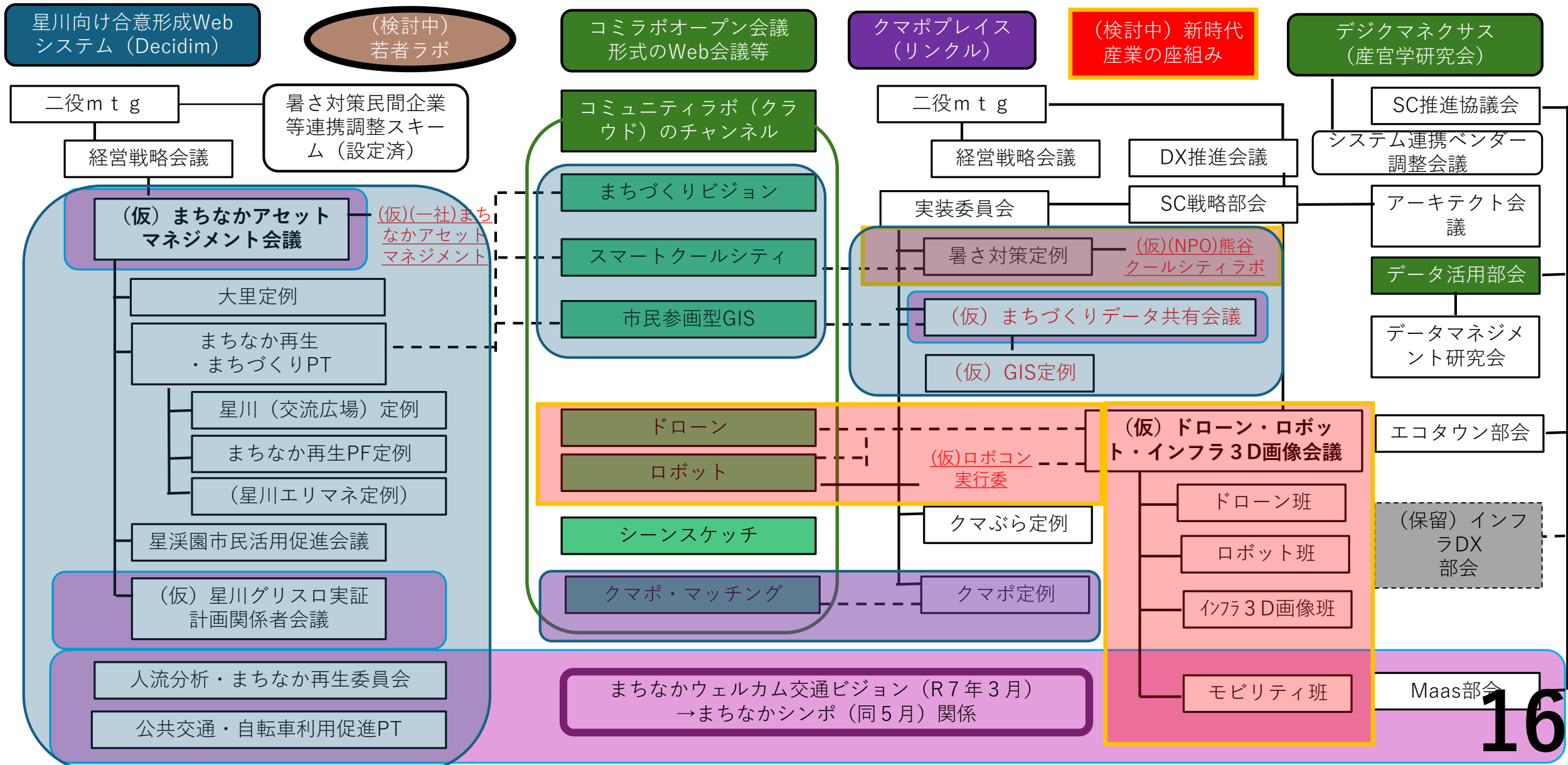
(4) 併せて、「熊谷コミュニティラボ利用ガイドライン」に留意し、他の参加者への敬意と誠意をもって対応する。

(5) なお、上記(4)に留意しつつ、(2)(3)の主旨に関して説明の上でも「クラウドラボ上では対応しかねる」ことに応じていただけない場合には、政策調査課に連絡のこと。(共同運営主体と対応を検討する。)

(注) 「Webコモンスペース」は熊谷スマートシティ推進協議会データ活用部会において、熊谷スマートシティのシステム改善やデータ活用、その他公民連携のまちづくり等に市民等の参画を促すためのWeb上の意見交換の場として用いられた造語。

(参考) コミュニティ関係の取組と公民連携に関わる会議体等の関係 (案)

(凡例) Web等により市民にオープンになる会議 (予定) 交通ビジョン、R7年5月クロシンシンポ関係



○熊谷スマートシティにおける
Web共創・情報発信の考え方

○双方向性システムによる「企画」
と「実行」のループの加速

○コミュニティラボの取組み

○（参考）リアルでの取組み

【オープンラウンジ形式の会議とは】

庁内での“閉じた”会議ではなく、庁外のフリースペース（KUMAGAYA PLACEなど）で会議を行うことで、内容を広く市民に公開するもの。

併せてZoomを利用したハイブリッド型の開催も効果的。

【オープンラウンジ形式で会議を行う目的】

熊谷市版のリビングラボである「コミュニティラボ」の公開をきっかけとして、職員は、仕事の仕方自体を根本的に変えていく観点（公開できる会議は原則として公開することで、市民とともに政策を進めていくなど）を持つ必要がある。

（主にKUMAGAYA PLACEでの）オープンラウンジ形式の会議のノウハウや課題を庁内で共有・更新していくことで、効率的・効果的な会議の実施につなげていく。

(参考) オープンラウンジ形式の会議開催記録

■開催履歴

- (凡例) 【1】 民間関係者ご講演中心の勉強会のオープン化型
【2】 公民連携に係る意見交換のオープン化型
【3】 市役所が主体となったの取組みの紹介型
【4】 市役所主催の既存の公式会議のオープン化型

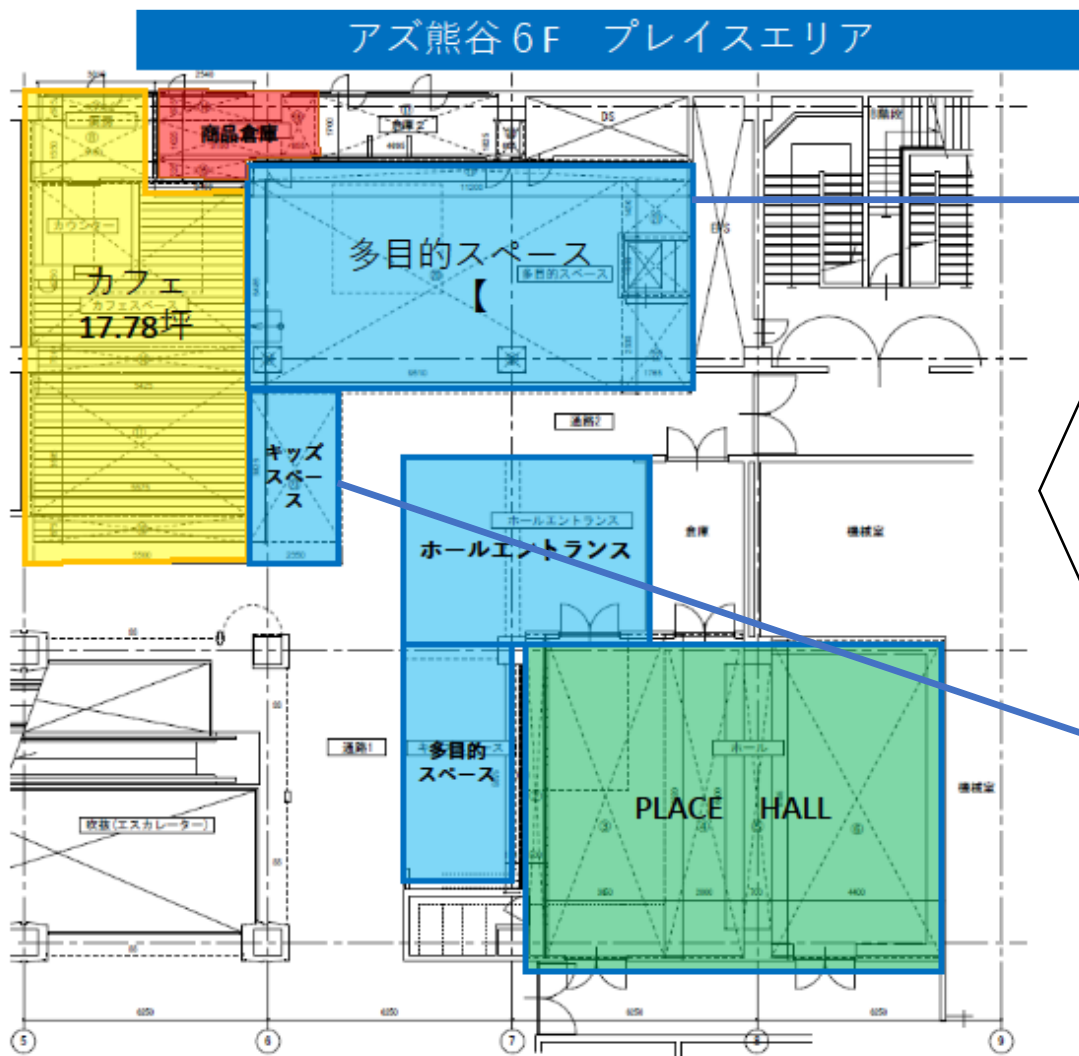
- 10月1日(火) 15時半～ デジくまネクサス(第三回:クマぶら)【1】
10月22日(火) 15時～ グリーンスローモビリティ勉強会①【3】
11月7日(木) 13時～ データ活用部会(スマートシティ推進協議会)【4】
11月〇〇日() 〇〇時～ グリーンスローモビリティ勉強会②【3】
11月25日(月) 15時～ クール×ウォークブルシティ意見交換【2】
12月3日(火) 15時～ デジくまネクサス(第四回:コバトン健康マイレージ)【1】
2月6日(木) 10時～ グリーンスローモビリティ勉強会③【3】
2月14日(金) 15時～ クマポ・クマポプレイス意見交換【3】
2月17日(月) 14時～ AI画像生成意見交換(シーンスケッチコンテスト関連)【1】

■検討中

- 月 日() 時～ データ活用部会(スマートシティ推進協議会)【4】
月 日() 時～ タブローカフェ・公開版【3】

(参考) 熊谷プレイスにおける会場設営例

(全体配置図)



(設営図)

・凡例



メイン来客ゾーン

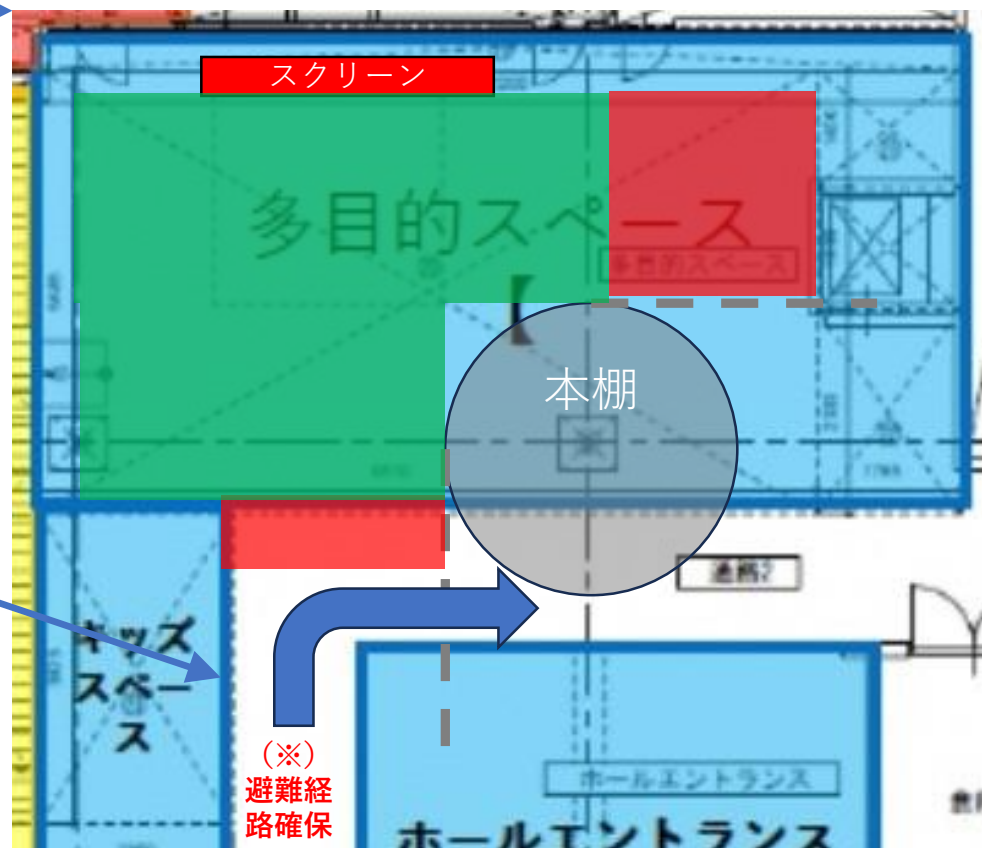


来客予備、事務方、講師待機、受付等ゾーン

イメージ図



(※) 10月1日時点ではカフェ用スペースも利用可能



(参考) R4年度 市役所内オープンラウンジ実験

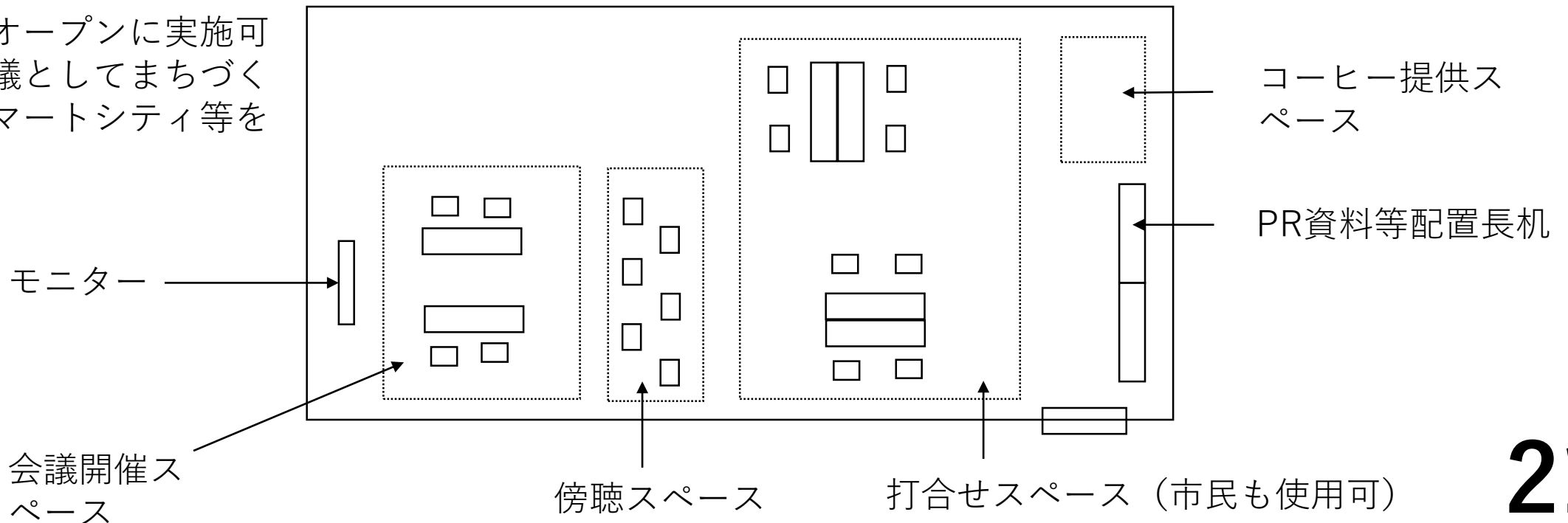
日時：令和4年12月5日(月) 13:00~17:00
12月6日(火) 10:00~17:00

会場：熊谷市役所本庁舎 603東会議室

共用の打合せ空間、ドリンク提供による市民協働・庁内部局間連携の円滑化等の効果を探る機会として、打合せラウンジを2日間限定で設定。

(コーヒーについては、地元カフェとコーヒー豆企業とのコラボによる無料コーヒー提供企画から提供。)

(※) オープンに実施可能な会議としてまちづくり、スマートシティ等を提供



スマートシティ・まちなか再生のこれからについて語る場（移動式を想定）をR7年10月オープン予定の拠点へ。



(イメージ)

(出典) 編集工学研究所「ほんのれん」Webサイト <https://honnoren.jp/>

【市民共創
対話カード】（第一
版の一部）



【スマートシティ関連書籍】
(イメージ)



【公民連携まちづくり関連書籍】
(イメージ)



クラウドラボ・シーンスケッチ・ツノルバ (Digidim) 等と連動し、**移動可能なまちづくスポット**として機能



(2階以上)
ロボくまロフト

2階以上の旧医院・住居を活用した、生活支援ロボット等の稼働を実証する空間



(1階) 滞在交流拠点

1階は滞在交流拠点がオープン
(画像はイメージ)



熊谷スマートシティにおける市民共創のための対話カード（第一版）一覧

（注）本カードに用いている画像に関する留意点

- ・コバトン健康マイレージの画像については、本カードへの使用について埼玉県庁への報告の上で了解を得て用いています。他の目的での使用については、埼玉県庁に直接お問い合わせください。
- ・その他の画像については、熊谷市役所が業務上作成した画像であり、上記③の目的に沿って印刷・紹介に用いる場合を除き、原則として流用を禁じます。その他の用途での利用については熊谷市役所市長公室政策調査課にお問い合わせください。
- ・なお、熊谷市役所が業務上作成した画像には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を用いて作成したものが含まれます。

交通安全見守りカメラ



マイナカード本人認証



健康マイレージシステム



行政書類の電子交付



スマート農業用具



AIカメラでのスポーツ配信



電子マップの作製・共有



まちづくりシミュレーション



電子図書館



スマホへの苦手意識の解消



ドローン



生活支援ロボット



スマートハウス



データ連携・分析



持続可能なエコシステム



やさしい未来発見サイクル



移動・交通



地域行政



子育て



教育



防災・防犯



健康



雇用



事業創造



コミュニティラボ



子育て支援の充実



暑さ対策情報の共有



水辺・緑陰空間の創出



デジタルを通じた多世代交流



3D防災シミュレーション



産業クラウドファンディング



学び合いプラットフォーム



ICTを活用した交通利用



インフラの維持管理



クマぶら（イベント）



デジタルバリアフリーマップ



スマホ回数券



バス位置データ



気象シミュレーション



Wi-Fiの備え付け



熊谷スマートシティにおける市民共創のための対話カード（第一版）について

- ①本カードは、熊谷市の公民連携まちづくりの一環として、スマートシティ構築への市民参加を促進し、市民と行政が共同でデジタルの力を活用したまちづくりに取り組むためのツールとして準備されたものです。
- ②カードに記載の内容は、熊谷市のスマートシティにおける方針、実装済みあるいは実装予定のシステムやデータなどから成り立っています。（実装予定の内容は、令和6年度予算により実装に着手している内容、あるいは、今後数年のうちの着手を目指す内容として令和6年3月に「ウェルビーイングビジョンマップ」として公表した内容から成ります。）
- ③本カードは熊谷市におけるスマートシティに関係する意見交換やワークショップで用いることで、市民や関係団体と市役所のスマートシティ担当者等の情報共有が円滑に行われることを目指して作成しています。そのため、記載内容については熊谷以外のスマートシティでは実装に向けた検討が行われていない熊谷独自の内容等も含まれます。
- ④本カードに用いている画像に関する留意点
 - ・コバトン健康マイレージの画像については、本カードへの使用について埼玉県庁への報告の上で了解を得て用いています。他の目的での使用については、埼玉県庁に直接お問い合わせください。
 - ・その他の画像については、熊谷市役所が業務上作成した画像であり、上記③の目的に沿って印刷・紹介に用いる場合を除き、原則として流用を禁じます。その他の用途での利用については熊谷市役所市長公室政策調査課にお問い合わせください。
 - ・なお、熊谷市役所が業務上作成した画像には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を用いて作成したものが含まれます。